

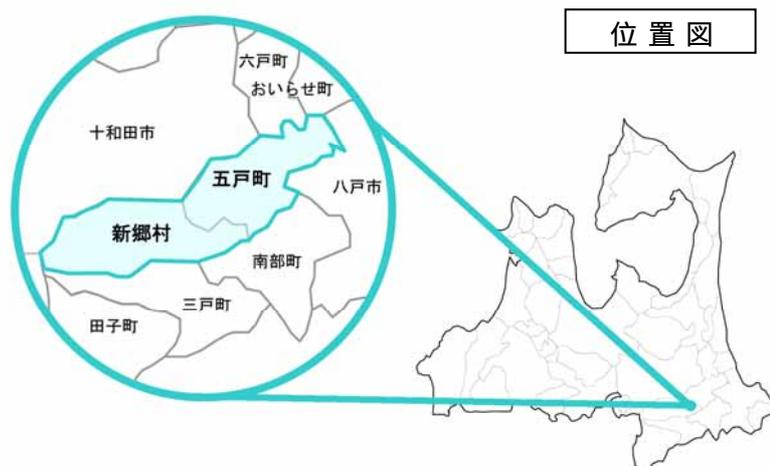
## 構想対象市町村の組合せ（五戸町・新郷村）について

## 〔地域の現況〕

## 地理的状況

五戸町は、広域市町村圏の中心都市である八戸市に接し、新郷村は八戸市から五戸町を經由し、十和田湖へ至る玄関口となっている。

両地域は、地勢的には、五戸川及び浅水川沿いを中心とした平野に水田が耕作して集落が形成され、丘陵地帯は畑や果樹園、河川上流部の台地は草地として利用されている。



## 人口動向

平成 12 年と平成 17 年の国勢調査結果を比較すると、五戸町で 5.9%、新郷村で 6.2%の減少率となっており、平成 42 年までの将来推計によると、今後とも人口の減少や少子高齢化が急速に進むものと見込まれている。

(人口・面積・人口密度・世帯数)

(単位:人、m<sup>2</sup>、人/m<sup>2</sup>)

	人 口 (H17 国調速報)	面 積 (H12 国調)	人口密度 (H12 国調)	世 帯 数 (H12 国調)
五戸町	20,138	177.82	119.9	6,268
新郷村	3,135	150.85	22.2	927
計	23,273	328.67	75.0	7,195

(人口及び少子高齢化の動向及び今後の見通し)

(単位:人、%)

	人口の推移			高齢化率の推移		
	H12(2000)	H27(2015)	H42(2030)	H12(2000)	H27(2015)	H42(2030)
五戸町	21,318	20,091	17,867	24.0	31.7	38.3
新郷村	3,343	2,769	2,129	32.2	41.8	48.6
計	24,661	22,860	19,996	25.1	33.0	39.4

## 産業の状況

両地域ともに、農業が就業者構成比の最も高い割合を占めており、地域経済に与える影響も大きいことから、基幹産業として位置付けられている。

主要作物は米、野菜、果樹のほか、酪農・肉用牛の畜産、葉たばこや花き等多種にわたり、これらを組み合わせた複合型の農業経営が盛んである。

(産業別就業者数)

(単位：人、%)

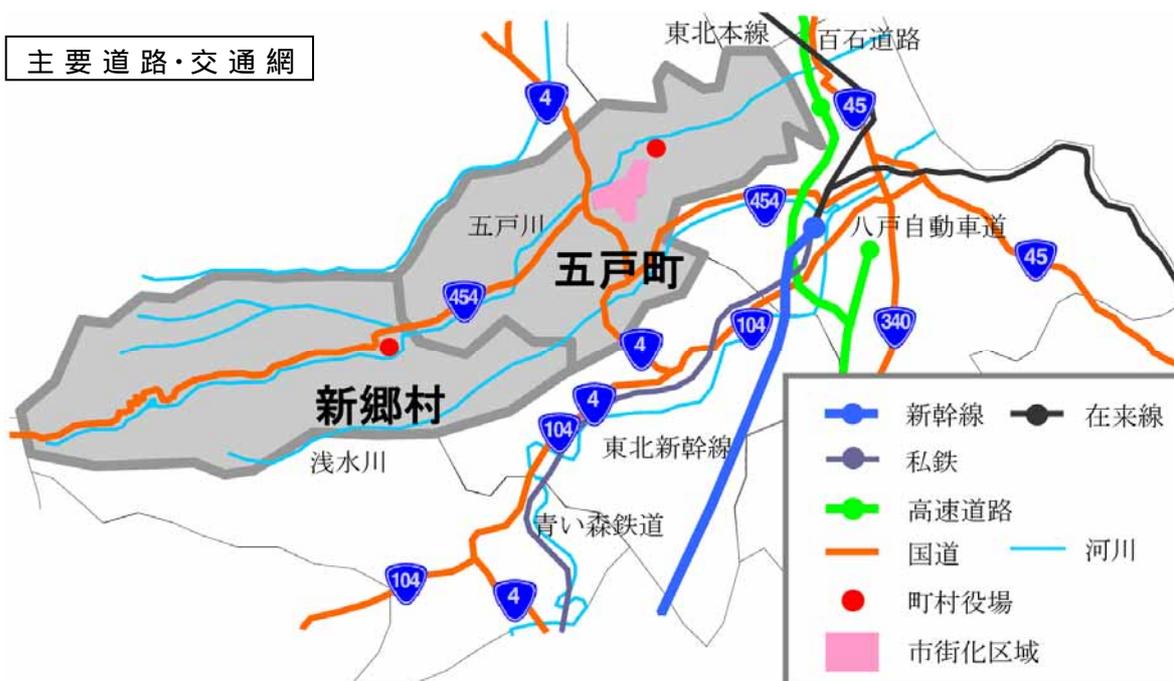
	五戸町 (H12 国調)			新郷村 (H12 国調)			
	産業	就業者数	構成比	産業	就業者数	構成比	
第1次	-	2,742	24.1	-	971	48.6	
第2次	-	3,693	32.5	-	390	19.5	
第3次	-	4,940	43.4	-	636	31.8	
計	-	11,377	-	-	1,998	-	
主な産業	1位	農業	2,710	23.8	農業	923	46.2
	2位	サービス業	2,116	18.6	サービス業	330	16.5
	3位	製造業	2,056	18.1	建設業	296	14.8
	4位	卸売・小売業	1,662	14.6	卸売・小売業	122	6.1
	5位	建設業	1,629	14.3	公務	103	5.2

## 交通の状況

両地域は、国道 454 号により車で約 20 分の距離にあり、公共交通機関として、南部バスが 1 日 8 ~ 11 往復運行している。

五戸町から広域市町村圏の中心となる八戸市までは、車で約 30 分の距離にあり、南部バスが 1 日 9 ~ 14 往復運行している。

### 主要道路・交通網



## 生活圏の状況

通勤、通学、買物、医療等の生活圏域については、総じて八戸市との結びつきが強いが、新郷村は、通勤と医療において、五戸町との結びつきが最も強くなっている。

## 広域行政の状況

消防、老人福祉（特別養護老人ホーム）及び介護保険認定は八戸地域広域市町村圏事務組合、ごみ処理は十和田地域広域事務組合、し尿処理は十和田地区環境整備事務組合、障害福祉（知的障害者施設）は三戸郡福祉事務組合で、それぞれ共同処理を行っている。

## 各種団体の状況

- ・ 農協合併により「JAしんせい五戸」（旧五戸町、旧倉石村及び新郷村の5つのJAが合併）が誕生している。（H7.6）
- ・ 八戸市、五戸町、新郷村の関係団体などで構成される「五戸川流域の保全と創造を考える会」が設立され、五戸川流域を中心とした自然環境等の保全活動が展開されている。
- ・ 五戸町商工会と新郷村商工会において、商工会合併に向けた検討が進められている。

## 【旧法下での合併協議の状況】

五戸町、倉石村及び新郷村の3町村による「五戸地方合併協議会」（任意の合併協議会）が設置（H13.6.1）され、合併協議が進められていたが、新郷村の離脱により合併協議会を解散（H14.10.31）。

その後、五戸町と倉石村の2町村による「五戸町・倉石村合併協議会」（法定の合併協議会）が設置（H14.12.1）され、編入合併により新「五戸町」が誕生（H16.7.1）。

一方、八戸市、田子町、名川町、南部町、階上町、福地村、南郷村及び新郷村の8市町村による「八戸地域合併協議会」（法定の合併協議会）が設置（H15.4.1）されたが、階上町の離脱等により合併協議会が解散（H16.6.30）。

## 【合併の必要性及び組合せの考え方】

新郷村は、人口1万未満の小規模村で、人口減少や少子高齢化が著しく、今後、社会経済情勢の変化等に的確に対応し、行政サービスの維持向上を図っていくためには、合併を契機として行財政基盤の充実を図ることが必要である。

五戸町と新郷村は、歴史的、文化的なつながりや住民の生活圏における一体性が強いことから、今後、合併を契機として、それぞれの地域資源を有機的に結びつけた地域振興が期待できる。

## 【地域の発展方向】

五戸川流域を拠点とする農林・畜産業と農産物加工業の振興  
十和田・奥入瀬への観光ルートや豊かな地域資源を活かした観光振興

## 【期待される合併効果】

行政経費の削減と行財政基盤の強化  
公共施設の効率的配置や広域的利用等による住民の利便性の向上  
農畜産物のブランド化、循環型農業の確立等による農業振興  
広域的な土地利用の推進や、五戸川の水源保全等によるまちづくりの充実  
自然や温泉、食等の観光資源を組み合わせた広域観光の推進  
地域間交流の促進や地域コミュニティ活動の活発化